

1. 研究主題

自ら学びに向かい、ともに認め合い、高め合う子どもの育成
 — 家庭と連携し、自己を高める学習習慣の形成を目指して —

2. 研究の具体

(1) 「学びのときめき」のある授業の工夫

① 能動的な学習に向かう課題の設定

児童の素朴な疑問や興味・関心を大切にした課題や、解決に必要感が持てる課題を設定し、児童の意識が継続するようにする。

② 思考を広げたり深めたりするための支援

違いやよさに気づき、学び合えるような発問・助言、板書、ノート指導、交流、教具等を工夫する。

③ 学び合いを活性化するための場や教具の工夫

なぜ交流するのか、ねらいを教師がはっきりさせておき、発達段階や学級の実態、学習のねらいに合った交流形態や方法を選ぶようにする。

④ 達成感を味わったり、自分の成長に気付いたりすることができる振り返りや評価

児童が、分かる・できる喜びや自分の成長を実感することができるよう、授業や単元の終わりに「振り返り」を行ったり、友達や教師、保護者等、他者から認められる場を設けたりする。



【任意単位を使って面積を比較する児童】



【「いいねシール」を貼って認め合う児童】

(2) 学びを支える生活習慣、学習習慣の形成

① 生活チェック

長期の休み明けに行い、望ましい生活習慣を意識付けるとともに、親子で生活の仕方を振り返る機会をつくる。

② 「家庭学習の手引き」

各学年の学習時間の目安や自主学習の例等、家庭学習の仕方を具体的に示す。保護者用の手引きは、6年間を通しての家庭学習の仕方が分かるようにする。

③ 「家庭学習の記録」

自分の力や生活の仕方に合っためあてや計画を立てること、自ら学びに向かうことを大切にして、めあてと振り返りを記録する。

④ ノート指導の共通実践

「めざせ！ノート名人」を作成し、ノート指導の共通実践を行う。各学年の工夫したノートを掲示し、内容の充実を図る。

【「家庭学習の記録」】

(3) 保護者啓発、家庭との連携

① 家庭教育学級

外部講師を招き、保護者と教師がともに児童の教育の在り方について学んだり、話し合ったりする。

② 「学習習慣形成モデル校事業」だより

家庭でのルール作りや家庭学習の仕方等について、資料を配付して啓発する。

3. 研究の検証及び改善の手立て

- ・ 「学びのときめき」のある授業づくりの研究を通して、一人一人の児童が自ら学びに向かえるよう意識して指導することができた。
- ・ ペアで感想を話し合ったり、シールを貼ったり、保護者からコメントをもらったりと、様々な方法で振り返りや認め合いをすることで、できる喜びや自分の成長を実感する児童の姿が見られるようになった。
- ・ 「家庭学習の記録」をすることで、児童は自分の家庭学習の仕方を振り返ったり、自分に合っためあてを立てたりすることができるようになってきた。
- ・ 保護者の声を生かした家庭との連携の仕方を探っていきたい。